



TITLE:

公共事業の社会的受容に関する人々の情報処理過程と受容改善に向けた取り組みについての考察(
Abstract_要旨)

AUTHOR(S):

尾花, 恭介

CITATION:

尾花, 恭介. 公共事業の社会的受容に関する人々の情報処理過程と受容改善に向けた取り組みについての考察. 京都大学, 2016, 博士(工学)

ISSUE DATE:

2016-03-23

URL:

<https://doi.org/10.14989/doctor.k19693>

RIGHT:

学位規則第9条第2項により要約公開

京都大学	博士（工学）	氏名	尾花 恭介
論文題目	公共事業の社会的受容に関する人々の情報処理過程と受容改善に向けた取り組みについての考察		
<p>（論文内容の要旨）</p> <p>本研究は、公共事業計画の受容改善を目的として、人々の情報处理的側面から受容について理解することを試みた研究である。近年になり、社会的受容の重要性が認識されてきており、これに対応するようにこれまでの社会的受容研究では受容に影響を及ぼす要因及びそれらの要因間の関係を明らかにしてきたものの、情報处理的側面に着目した研究は取り組まれてこなかった。そこで本研究では、情報処理の過程として、情報取得過程、情報統合過程、及び情報出力過程に区別し、それぞれについて下記のような研究を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 情報取得過程<ul style="list-style-type: none">① 受容判断が求められない場面での情報取得行動分析② 受容判断が求められた場面での情報取得行動分析・ 情報統合過程<ul style="list-style-type: none">③ 受容に影響を及ぼす要因の分類④ 情報取得後から受容評価までの情報処理過程の分析・ 情報出力過程<ul style="list-style-type: none">⑤ 受容判断における社会的影響の考察 <p>本論文の構成は3章から成っており、第1章では研究の背景・目的を述べ、第2章では上記①～⑤の研究を行い、第3章では研究の成果の概要及び受容改善に向けた取り組みについて考察している。以下、本論文で得られた知見を論文の第2章を中心にして述べる。</p> <p>情報取得過程について、受容の判断に用いる情報を判断者の内側と外側で内的情報と外的情報に区分した上で、原子力発電事業や廃棄物処理事業を題材として、情報探索行動を中心とした検討を行っている。受容判断が求められる場面での情報探索行動の研究では、場面想定の実験により住民投票場面と世論調査場면을比較した結果、両場面において内的情報探索は協力者のほぼ全ての者が探索すると回答したことを示した一方で、外的情報探索行動は世論調査場面において探索すると回答した割合が下がったことを示し、情報探索行動が状況に依存する可能性、及び内的情報探索行動が外的情報探索行動に先行して行われる可能性を示唆している。また、探索する情報について、住民投票場面の方が世論調査場面に比べて、また原子力発電施設の方が廃棄物処理施設よりも、内的情報として想起する対象が広い可能性についても示している。受容判断が求められない場面での情報探索行動の研究では、東日本大震災直後（2011年3月～9月）とそれから約4年が経過し震災当時よりも状況が落ち着いた平時の場面（2015年1月～7月、2015年5月～11月）の情報探索行動について調査比較し、東日本大震災直後の方が平時に比べて情報探索行動が生起していたことを示した。また、人々の情報探索行動に影響を及ぼす要因として、自身に危害を及ぼす可能性の認知と社会規範が変化する可能性の認知を検討し、後者が外的情報探索行動の生起に影響を及ぼす可能性を指摘している。</p>			

京都大学	博士（工学）	氏名	尾花 恭介
<p>情報統合過程について、受容に影響を及ぼす要因を、先行研究のボトムアップ的な方法とは異なり、トップダウン的な方法により、受容を働きかける側に関する要因、受容する側に関する要因、受容の対象に関する要因、決定に至る過程に関する要因、その他の状況的要因の 5 つに区分している。また、説得場面での情報取得後から意思決定までの過程を説明する精緻化見込みモデルを用いて、公共事業計画の受容場面の情報処理過程の理解を試み、公共事業計画の受容場面においても同モデルの枠組みが適応できる可能性を示唆している。実験の結果から、人々の能力や動機づけに働きかけることで人々が受容判断に用いる情報に変化をもたらすことができる可能性を指摘している。</p> <p>情報出力過程について、同調研究、少数派の影響、集団極化現象といった古典的な社会的影響の研究を参考にして社会的側面が個人の受容判断に及ぼす影響について検討している。社会的影響の先行研究成果から、人々が自身の受容評価と他者の受容評価を行うこと、そしてそれらの評価を比較して自身の受容評価を他者の受容評価に合わせる場合があることを指摘している。</p> <p>最後に第 3 章では、第 2 章で得られた成果を統合し、公共事業の受容についての情報処理モデルを提起した上で、情報取得過程、情報統合過程、及び情報出力過程のそれぞれに対する受容改善のための取り組みについて言及している。</p>			

氏 名	尾花 恭介
-----	-------

(論文審査の結果の要旨)

公共事業計画を実施するために、人々に計画を受容してもらうことが非常に重要となる場合がある。しかし、公共事業計画が受容されないことがしばしば生じており、計画が実現に至らないことがあるのも事実である。この公共事業計画に対する人々の受容改善に向けて、特定の学問に限らず、学問横断的に研究が進められてきているが、課題の解決に至っていない状況である。

当該研究は、以上の問題意識の下に公共事業計画の受容について、情報处理的観点を取り入れて人々の受容判断の過程を情報取得から最終的な結論に至るまで包括的に理解することで、より実践的な受容改善の取り組みの促進を目指したものである。

これにあたり、第一に、社会的受容研究で明らかにされてきた影響要因を網羅的に整理し、人々が受容を判断する際に潜在的に評価しようとしているものについて明らかにしている。

第二に、精緻化見込みモデルを用いて、情報を取得してから受容の評価に至るまでの処理過程を明らかにしており、人々の能力や動機付けに働きかけることで、受容を改善し得ることを指摘している。

第三に、受容の判断に用いる情報を内的情報と外的情報に区分し、人々が受容を判断する際の取得・探索行動の生起や、それらの行動生起に影響を及ぼしている要因を明らかにしており、社会的受容の改善のために受容を働きかける側が行うべき取り組みを指摘している。

以上のとおり、本研究は土木計画をはじめ、公共事業計画の受容について、基礎的・実用的な知見を提供するものであり、今後公共事業計画の受容改善に向けた実践を考えるにあたって、意義のあるものと考えられる。よって、本論文は博士（工学）の学位論文として価値あるものと認める。また、平成28年2月22日、論文内容とそれに関連した事項について試問を行って、申請者が博士後期課程学位取得基準を満たしていることを確認し、合格と認めた。

なお、本論文は、京都大学学位規程第14条第2項に該当するものと判断し、公表に際しては、当該論文の全文に代えてその内容を要約したものとすることを認める。